



女の子の育て方

遊び方、友達付き合い、言葉遣いや勉強面など、さまざまな場面で「男の子と女の子ではどこか違う」と実感があるのではないのでしょうか。性が違えば、いろいろな部分で異なってくるのは自然なこと。性差を踏まえた、子育てのポイントを紹介していきます。

取材・文 八木沢由香 イラスト TITILE JULIO 撮影 山下吉雄
Text Yuka Yaginawa Illustration TITILE JULIO Photo Yoshio Yamashita



白数哲久

Tetsuhisa Siresu

昭和女子大学附属昭和小学校教諭。専門は理科。ガリレオ工房理事として実験開発にも取り組む。監修した本に『ふしぎの図鑑』(小学館)。



漆紫穂子

Shihoko Urushi

品川女子学院校長。28歳の未来から自分を考える「28プロジェクト」を教育に取り入れている。「女の子が幸せになる子育て」(かんき出版)など。



金盛浦子

Uraiko Kanamori

東京心理教育研究所所長、自遊空間SEPY主宰。これまで数多くの親子問題と向き合う。「男の子」って、どう育てるの? (PHP文庫) ほか。



勝浦範子

Noriko Ketsuuro

「日本子育て学会」常任理事。専門は教育心理学、発達心理学。共著に「おいつめられる男の子、どっちつかずの女の子」(文化書房博文社)。

男の子

違いのすべが
わかります!

声かけ

しつけ

学習指導

INDEX

男の子・女の子ってどうしてこうなの?	P44
無意識のうちに男の子・女の子“らしさ”を求めていますか?	P46
男の子・女の子のほめ方・叱り方	P48
男の子・女の子の気をつけたい親との関係	P50
男の子・女の子の勉強法	P52
男の子・女の子の苦手克服法	P54
こんな場合、どうしたらいいですか?	P56



引込み思案で大人しくて、友達作りが得意でないが、すでに周りの子に女子のグループ意識が芽生え始めており、それがさらに友達作りを難しくしている(小3女子の母)



同性同士なので厳しい目で見えてしまうし、
女の嫌な部分を感じる (小6女子の母)

父親に対して
タメ口。
または
**下に見た
言い方をする**
(小5女子の母)

理屈っぽい。
いたいところ(鋭い指摘)を
ついでくる(小5女子の母)

友達関係。
もめることが多くて、
その都度、親が口出しているものか悩む
(小3女子の母)

「お母さんは子どもの頃の
夢が叶わなかったのね」
と言われた(小6・小3女子の母)

すぐに
甘えられる人になびこうとする
(小3女子の母)

体の変化が気になる。
しかし、子どもは
正面きって話すのを嫌がる
(小6女子の母)

**性差を考慮したほうが
うまくいくことも**

子育てには性別に関係なく大事にすべき部分もあれば、違いを考慮したほうがよい部分もあります。特に小学生は、性差による特性の違いが顕著になってくる時期。「男の子・女の子ってどうしてこうなの?」どう関わればいいのか?と悩む場面も多くなります。次ページからは男女の違いを生かしつつ、子どもと上手に関わっていく方法を考えていきましょう。

男の子と女の子の子育てはどんなところが難しい? まずは読者アンケートから、親たちの実感を見ていきましょう。思わず「そうそう!」「そうなのよ!」と、うなずいてしまう親御さんも多いのでは?

AERA with Kids
読者の声

**男の子・女の子ってど
うしてこんななの?!**

子育てで難しいと感じる
ことがありますか?

男の子の親

小中学生のお子さんをお持ちの本誌読者を対象に、アンケート調査を実施しました。(2011年4月18日~25日、有効回答数89)

ない
40%

ある
60%

遊び方が乱暴だったり、洋服も
必要以上に汚してくる
(小1・小4男子の母)

プライドの持ち方が
女の子とは違うように感じる
(小5男子の母)

生意気で言うことを聞かない。
親を非難する、見下す。
力が強くて、
**家の壁やドアを
蹴ったり、
殴ったりする**
(小5男子の母)

長女が同年齢のときと比べて
幼いと感じる。
**すぐにすねたり
泣いたりする。**
こちらからいろいろ聞かないと、
自分からあまり言葉にして話さない
(小6男子の母)

**異性なので
わからないこと
ばかり**
(小1と小4男子の母)

同じ間違い、
失敗をしてもあまり反省がない。
いつも心が自由
(小2男子の母)



**わからない男の子、
厳しく見られる女の子**

今回、本誌読者の親御さんたちに行った、男の子・女の子の子育てに関するアンケート結果でも、「育てるのが難しいと感じる」と回答した方が男の子・女の子ともに6割を超えています。寄せられた声を見ていくと、男の子には、「何を考えているのかわからない」「男の子同士の関わり合いが理解できない」「言葉や行動が乱暴になってきた」など、女性である母親との感覚の違いが、子育ての難しさとなっているよう。女の子には、「友達関係にどこまで口出しをしていいのか悩む」「同性同士、自分の嫌なところを娘に見せよう」「口で言うこととやっていることが違い、裏表がある」など、母親が同性だからこその嫌な部分に、心配や厳しい目に向けがちになるようです。

「男の子は遊び方も言葉も行動も乱暴。何度言っても片付けないし、言うことをちっとも聞かない!」「娘に何か注意すると、すぐ『ママだって同じことやってるでしょ』と口答え。あげくに『私はママみたいになりたくない!』だって!」異性の子には異性ならではの、同性の子には同性ならではの難しさを感じ、「この接し方でいいのかしら」と、戸惑いや不安を感じる親は少なくありません。

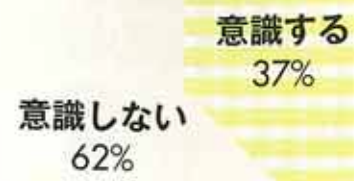
子育てで難しいと感じる
ことがありますか?
女の子の親

ない
37%

ある
63%

男の子・女の子「らしさ」を求めていませんか？

男の子にはたくましさ、女の子には気遣いと礼儀。こうした「らしさ」をわが子に求める傾向は、昔より減りつつあるようです。でも実際のところはどうでしょうか。ここでは、「らしさ」について考えてみましょう。



「意識する」は約4割。「意識しない」が約6割。親たちは、一見「らしさ」にこだわらないように見える

日頃から、「男の子らしく」「女の子らしく」を意識して子育てしていますか？
※読者へのアンケートより

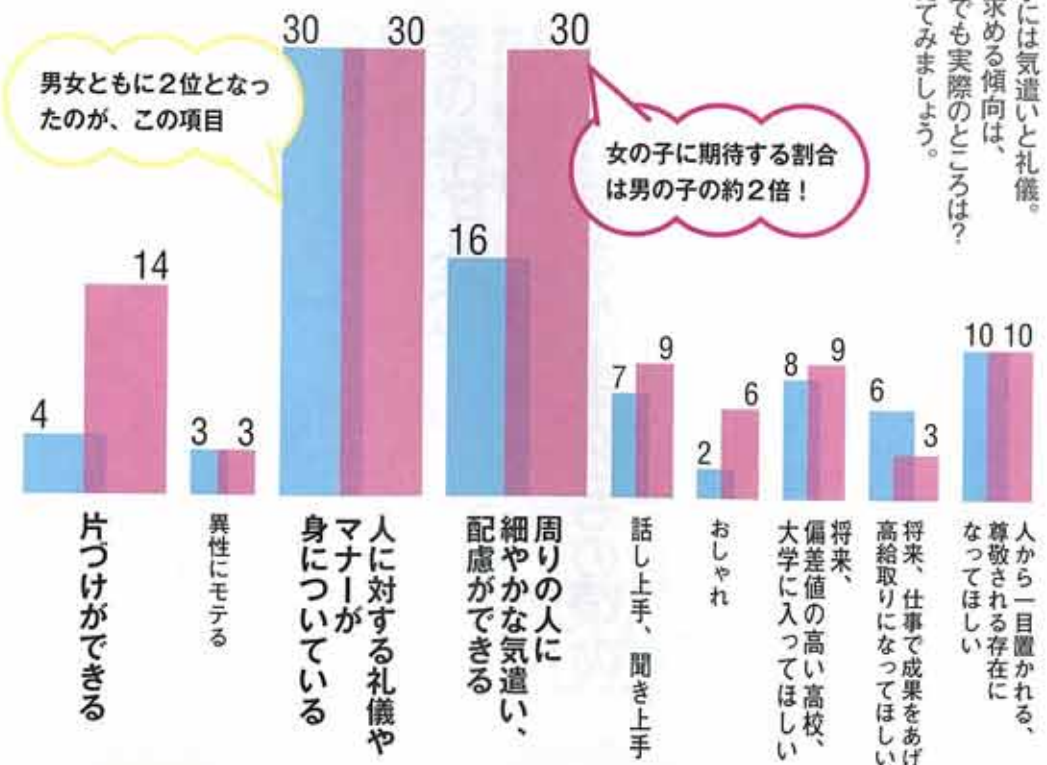
意識していないように感じている「らしさ」

アンケートでは、「子育てで「らしさ」を意識しない」と答えた親が約6割に達しています。わが子に男らしさ・女らしさを求めるのは、やはり過去の子育て？

しかしこの結果について、セラピストとして親子の問題を数多く扱ってきた金盛浦子さんは「意識

どんな子／大人になってほしい？

グラフは、本誌読者に対するアンケートで、「現在や将来、わが子に期待すること」を聞いた結果。「他人に対する思いやり、優しさ」「人に対する礼儀やマナー」は、男女ともほぼ同数で上位に。男女ともに、対人コミュニケーション力がある人に育ってほしいという願いが感じられる。これらの現代的な親の願望に加えて、男は「元気で活発」、女は「片付け」「料理」など、昔から期待される特徴も健在。



脳科学で見る

先天的な男の子らしさ・女の子らしさ



していないところで、意識しているということではないでしょうか」と鋭く分析します。

確かに下の「わが子に期待すること」を見ると、男の子と女の子で歴然と差のある項目があります。男の子の場合、「元気で活発、外遊びが好き」「運動が得意」、女の子は「周りの人に細やかな気遣い、配慮ができる」「片付けができる」「料理ができる」がそれ。

「男／女らしく」を表立っては言わないけど、やはりどこかでそうあってほしいと思う——そんな親たちの気持ちが透けて見えます。

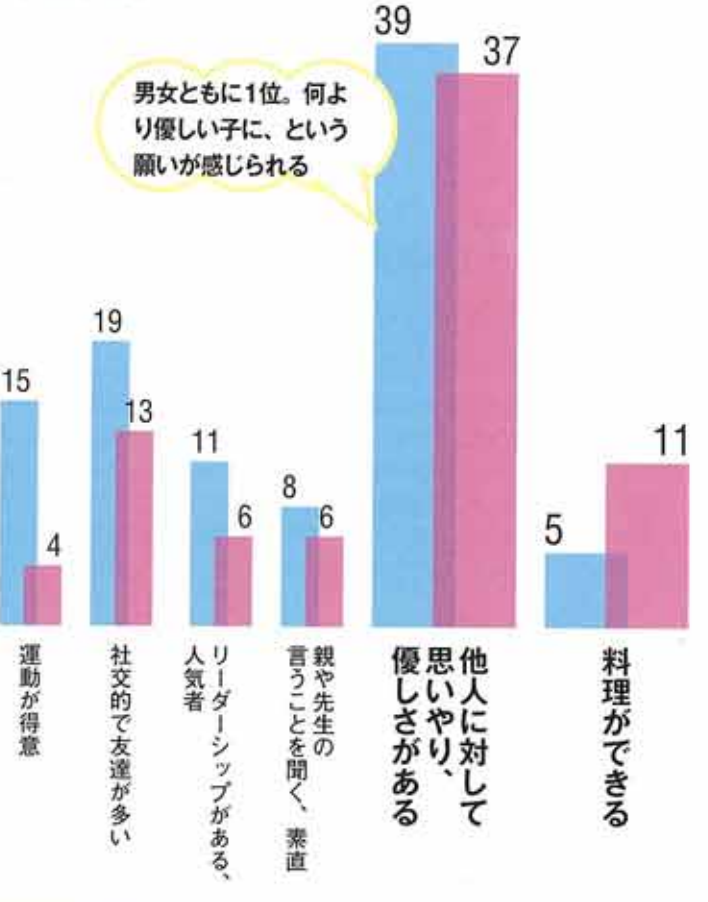
大切にしたいのは「その子らしさ」

では、この「らしさ」は、どこまで求めてよいものでしょうか？発達心理学が専門の勝浦範子さんは「基本的には求めないほうがいいですね」と答えます。

将来、一家の大黒柱になることを意識して、社会人として普通にやっていけること (小4男子の母)

相手にの気遣いができる。しぐさ、品のよさ (小6女子の母)

いすに座ったときにひざをつけるなど、女の子として最低限見苦しくないように (小4女子の母)



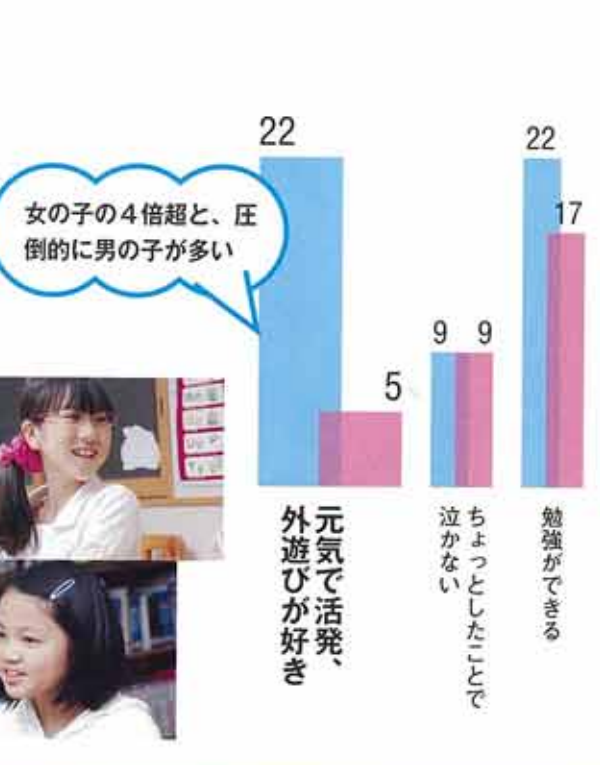
「気弱な男の子、がさつな女の子に無理に、男／女らしさ」を求めると本人にとっては苦痛で、かえってその子のよさを潰してしまいかねません。「らしさ」を求めるなら個性に目を向けて(勝浦さん)

がさつな気弱も、性差を離れて眺めれば、その子のひとつの個性。男・女より、その子らしさを、まず大切に、とアドバイスします。

「女の子を助ける、泣かせない」など、やはり私が男性に求めることは押さえてほしい (小5男子の母)

料理や洗濯物干しなど、家事を少しずつできるようにしてほしい (小2女子の母)

男の子は打たれ強く、ある程度の闘争心があってほしい (小6男子の母)



田中富久子
Fukuko Tanaka
田中クリニック横浜公園院長、横浜国立大学名誉教授、医学博士。専門は生殖内分泌学、脳科学(脳の性差)。「女の老い・男の老い」(NHK出版)ほか著書多数。

女の子の老いは、古い脳によって、あらかじめ存在するもの。

一方、「強くてたくましい」「やさしくて気遣いができる」といった「男の子らしさ・女の子らしさ」と言われるものは、情報処理、記憶・学習、意思を伴う行動などを司る、新しい脳と関係してできていきます。

「前述したように、新しい脳には生まれつきの性差はありません。男／女らしい振る舞いなど、社会的・文化的な男／女らしさ」は、親の期待や教育といった周りの環境がつくり出します。そのようになる情報を脳に与えた結果、男／女らしい、神経回路がつくられていくのです(田中先生)

新しい脳はいくらでも修正が可能です。新たな情報が入ってくれば、神経回路を柔軟に構築し直していくからです。つまり直すには、これまでと違う情報を繰り返し脳に与えてやるだけ。

また最後に、こんなアドバイスも。「古い脳にあり、やる気の中核と呼ばれる側坐核には、ほめられるとドーパミンが分泌されて快感が伝わります。ほめられることが快感になりますから、ほめると側坐核が刺激され、やる気を生み出すこととなります。特にドーパミン分泌が盛んな男の子にとって、ほめることはやる気を高めるうえで効果的ですよ(田中先生)」

「男の子は、どんなにきつく叱っても大丈夫との思いが親御さんにはあるようです。でも男の子も、厳しく叱られたら当然傷つきます」と金盛さん。故意に傷つけたり、物を壊した場合などは厳しく叱る必要がありますが、それ以外は「こうすればいいわね」と諭すように叱ることが大切ですよ」と、男の子への叱り過ぎを戒めます。

「男のくせに」は逆効果 自信をさらに失わせる

さらに親がよく言いがちなのが、「男のくせに」「男なのに」と、「男」を言葉の頭につける叱り方です。「両親ともに、この叱り方はやめましょう。特に父親からこう叱られると、自分は父親のようになれない」と感じて、自信をなくす子もいます」と勝浦さん。

反対に、「男を頭につけるならほめ言葉のほうで」とアドバイス。「さすが男の子だね」など、男として認められていると実感できる

親子の関係編

男子・女の子の
ほめ方・叱り方

ポイント1

男の子のプライドを大切に

どんな男の子も、心の中に「男だからしっかりしなくちゃ」というプライドを抱えているもの。特に「怖い」「寂しい」という感情は、表に出したくないのが本音。気が弱くて、静かなタイプの子もまったく同じ。親からすると「頼りない」「何でこんなことぐらいで……」と思っても「男のくせに」「男なのに」と、プライドを傷つけるような叱り方はやめたい。

NG
男のくせにうじうじするな!

OK
さすが男だね、頼りになる!

ポイント2

「活発」なのは元の性質、「乱暴」は注意

男の子が活発で攻撃的なのは、そもそも脳がそうなっているから。加えて、テストステロンという男性ホルモンの働きも関係する。「乱暴なのは困る」と思っても、活発で活動的なのはもって生まれた特性なので、ある程度は仕方がない。とはいえ、人を傷つけたり、モノを平気で壊したりといった過ぎた乱暴まで、「男の子だから」で見過ごすのはダメ。活発を超えた行き過ぎた乱暴は、きちんと、しっかり叱るようにしよう。

NG
男の子だから仕方ないか

OK
注意するのはいいけど叩いちゃダメだよ

怒ったあとのフォロー

ニコニコしていれば基本OK

切り替えが早い男の子は、ひどく叱られても、しばらく時間が経つと普段どおりになっていることが多い。数時間してニコニコしていたらフォローは特に必要なし。落ち込んでいる様子なら、「さっきはきつく言い過ぎたかもしれないね。ごめんね」とフォローを。



使用方は、自信につながっていきます(勝浦さん)

しようとしていない タイミングで言わない

女の子の叱り方で気をつけたいのはタイミングです。

品川女子学院校長の漆紫穂子先生は、「子どもが特に嫌なのは、しようと思っていたときに、勉強しなさい!、早くやりなさい!、と言われること。途端にやる気をなくします」と気持ち代弁。なかなか動かないときには、「たとえば、宿題はご飯の後にする?、それとも前にする?。」と聞いてはどうでしょうか」と提案します。

この聞き方だと、「する」が前提になっているため、子どもがどちららを選択しても、自分で決めることによって体が動きます。

また「女の子は厳しく叱らないほうがいいのでは?」と思わないで、親が直感的にいけないと感じたことは、女の子であってもしっかり叱るようにしましょう。

「いくら叱っても効き目がない」「娘は叱るとすぐ落ち込む」、「叱ることひとつとっても、男の子と女の子では反応に違いが……」男の子・女の子のほめ方、叱り方はどうしたらいいのか、どこに気をつけるべきかを見ていきましょう。

ポイント1

子どもの話をよく聞く

子どもが話を聞かないときは、「なんで話を聞かないのっ!」と怒る前に、日頃わが子の話をちゃんと聞いているか考えてみよう。そもそも親が話を聞いてあげていないことが、聞く耳もたずの原因の可能性も。「子

どもの話を途中で遮らず最後まで聞く。口を挟むのは相づちと、「○○なことがあったんだね」というオウム返しだけ。これを心がけてわが子の話を聞くことで、コミュニケーションのベースができます(漆先生)

NG
待って! それは○○ってことでしょ!?

OK
そう、△△だったんだね

ポイント2

娘の振り見て、親自身が振り直す

子どもの言動は、ほとんどが親の言動の投影。日頃から、親が何でも批判的な物言いだったり、乱暴な言葉を使っていたら、子どもも同じようになっていく。「女の子なのに言葉が汚い」と感じたり、「ママってデ

ブだね。もっとやせたら?」「その格好ダサイ」などと言われたら、「親に向かって、そんなこと言うんじゃない!」と叱るより先に、親自身が日常の自分を振り返って、言動を変えていくことが先決です(金盛さん)

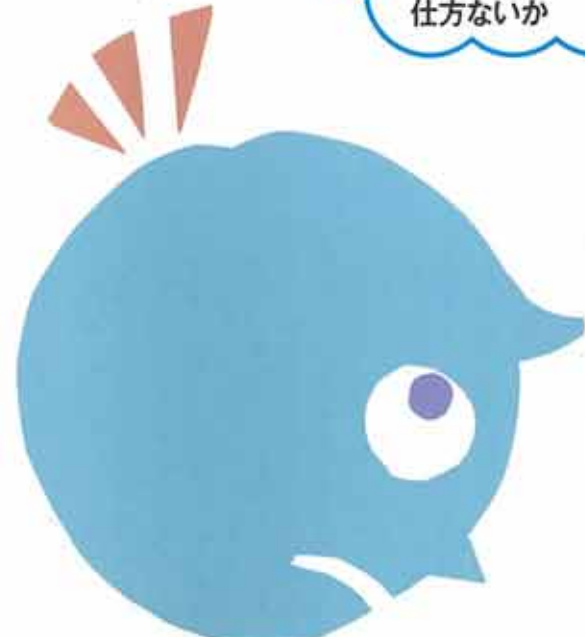
NG
親に向かって、その言葉は何!?

OK
ママも、そんな言葉言ってるかな?

怒ったあとのフォロー

引きずっていきそうなら話を聞く

女の子は叱られた後の切り替えが遅く、気持ちをなかなか立て直せない。くよくよ、ネチネチと引きずってしまうことも多い。いつまでも引きずっているようなら、「さっきのこと、まだ気にしているの?」と声をかけ、気持ちや言い分をきちんと聞いてあげよう。



女の子



男の子

母親と子どもの関係で、最も気をつけたいのが干渉のし過ぎです。たとえば金盛さんは「性差は関係なく、子どもが自立できないほどに母親が抱え込んでしまうケースが目立ちますね」と言います。

漆先生も同様の指摘をします。「無意識に『子どもに依存されることに依存している』親御さんが増えていけると感じます。子どもに問題が起きる場合、以前は親の放任型もありましたが、今は大半が親の過干渉です(漆先生)」

母親は、わが子の将来の自立を考え、干渉し過ぎず、構い過ぎず、程よい距離で子どもと接する。こんな心がけが必要になりそうです。「男の子も、朝は一人で起きる、自分の下着は自分で洗濯するなど、生活の自立ができるようにしていきたい(金盛さん)」

同性である女の子には「私の子、でも、子どもは別人格。考え方が違って当たり前だということ」を前提に子どもと接することが大



父親は見本としての自覚をもつ

父親は、子どもにとって信頼と尊敬の対象であることが大切。家庭のことは母親任せ、あるいは逆に「母親の助手」になって何でも言いなりの「存在感なきパパ」では、子ども心にとって不安の元になる。男としてのよき見本という自覚は、常に忘れないでおこう。忙しい父親は、コンビニへの買い物の行き帰り程度でいいので、父と子の時間をつくり、子どもの話を聞いてあげよう。

仕事の間や得意なことを子どもに見せる

「パパはこんなところがすごい！」と見える機会をつくるのも大事。仕事の間を見せたり、料理でも日曜大工でもゲームでも、自分の得意なことを子に見せよう

無理に威厳を示さず愛情ある信頼関係を

父親だからといって、威厳を示そうと無理に「厳しい父」になる必要はない。それより愛情のこもった関係を大切に、子どもから信頼される父親を目指して

一人親家庭の親御さんへ

父親と会うことが少ない、あるいは事情があって父親と会うことのできない一人親家庭の子は、大人の男性が「く身近にいない分、男性モデルを持ちにくくなります。それだけに、大人の男性とわが子が関わられる場や機会を、意識的に設けてあげるとよいでしょう。

「望ましいのは、おじいちゃんや母親の兄弟、年がうんと上のいとこ、親類など、子どもと近い関係にある男の人たちですね。このほか習い事の男の先生でもいいですよ(勝浦さん)」

子どもに男の子がいるなら、野球やサッカーといったスポーツのコーチ・監督も候補。男としての将来のモデルが持ちやすいように、男の子がいる家庭は特に意識して、関わる機会を作つてあげましょう。

親子の関係編

男の子・女の子の

気をつけたい親との関係

切です。距離感としては、がんばるときは応援するよ。といった、つかず離れずが一番」と漆先生。

接する時間は短くても存在感のある父親に

父親の場合、心がけたいことの筆頭は、やはり子どもとの時間をできるだけ持つことです。

「過去の調査で、子どもとよく関わる父親のほうが、子どもからの評価は高くなりました。父と一緒に遊ぶことを望む子ども、男女ともに増えています(勝浦さん)」

父親は、男の子には人生のモデル、女の子には理想の男性モデルです。存在感のない父親は、どちらにもモデル不在になるのでよくないと、勝浦さんは言います。

特に男の子の成長において、同性である父親の存在はとても重要です。接する時間は少なくても、「信頼できて尊敬できるお父さん」であることを心がけたいもの。

男の子が失敗したときには、「男だろ、何やってんだ!」「こんなこともできないでどうする!」ではなく、「お父さんだってそうだったよ」と包容力を見せ、安心させてあげるのが一番です。

女の子の容姿や体形に、不用意に触れるのも禁物。お父さん、ここは要注意ポイントですよ!

母娘の密着しすぎに注意

母と娘は同性同士ということも影響して、わが子を「分身」のように思ってしまうやすい。でも顔や雰囲気は似ていても、子どもは親とは別人格。その点を忘れないで子どもと接していくことが大切だ。密着し過ぎて過干渉に陥ることがないように「子どもは子ども、自分は自分」と分けて考え、程よい距離を保つようにしましょう。



娘の将来像を見据えた教育を

女の子には出産の可能性がある。それを念頭に、仕事やキャリア、女性特有の心身の健康問題など、未来から逆算して教育を考える視点を持つことが大事(57ページコラム参照)

子どもが大切にしていることを10個書き出す

娘が大切にしていること

- 1 学校から帰ると、着替えしないで居間でプロプロする
- 2 いっしょに登校する子との待ち合わせには遅刻しない
- 3 寝る前の一家団らんには加わりたがる
- 4 学校に着ていく服は自分で選ぶ
- 5 友達が遊びに来るときは、自分でお菓子を買いに行く
- 6 メールの返信はすぐしたがる
- 7
- 8
- 9
- 10

わが子を観察して、大切にしていることや時間の使い方を10個書き出してみる。自分とは違うものが大事なんだとわかると、そこを大事にしていけるようになる

子どもの問題と親の問題を分けて考える

子どもの問題に対して、世間体など自分自身の問題と分けて考えると、「子どもにこうなってほしいから、自分はこうしよう」と考えて行動できるようになる

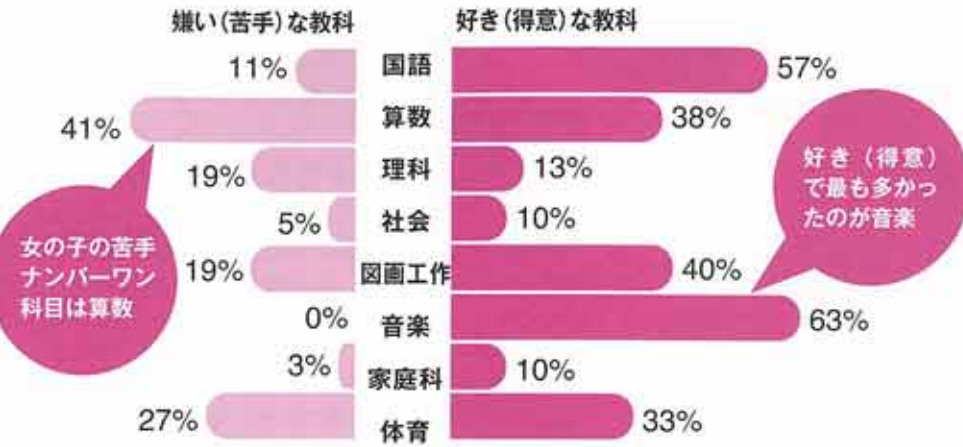
親と子の関係には父と子、母と子の二つの関係があります。同性同士の親子関係、異性の子との親子関係で、父親、母親が心がけておきたいことは何か、ここではそのポイントを紹介します。





女の子

どの教科が好き(得意)、嫌い(苦手)?



女子 好きな教科 嫌いな教科

- | | |
|--------|------------|
| 1 「音楽」 | 1 「算数」 |
| 2 「国語」 | 2 「体育」 |
| 3 「図工」 | 3 「理科」「図工」 |

女の子の好き・嫌い教科ランキングは男子と対照的。好き(得意)のベスト3には「音楽」「国語」「図工」と、感性や感受性が生かされる教科が並んでいる。反対に嫌い(苦手)には、算数や理科といった理系科目と体育がランクイン。注目したいのは、好きの項目でも算数の比率が高いこと。好き・嫌いではほぼ半々の結果。「女の子の多くは算数嫌い」とは言えなさそう。

やる気UPポイント

身の回りの生活から、楽しい、役立つを実感させる

暗記モノなどは得意な反面、知識の幅が広がりにくいのが女の子。興味を広げるアプローチとしては、「これって料理にも薬にも使われているんだよ」「知っておくと買い物ときに得するよ」など、身の回りの生活に結び付けて興味を引きつけていく方法。国内外の地理や地図の勉強も、旅行を切り口にすればやる気を出してくれるはず。女性科学者の伝記、開発や発見に至るまでのドラマなど、ストーリー性のある話も興味を示してくれる。

興味がわくキーワード

ギリシャ神話
色とりどり
デザイン
日常・身の回りにあるもの など

デザイン性、神秘性。日常の中で実感できるものが女の子は好き。ロマンティック、きれいでかわいい、親近感、生活に役立つ、が興味を持たせる鍵になる!

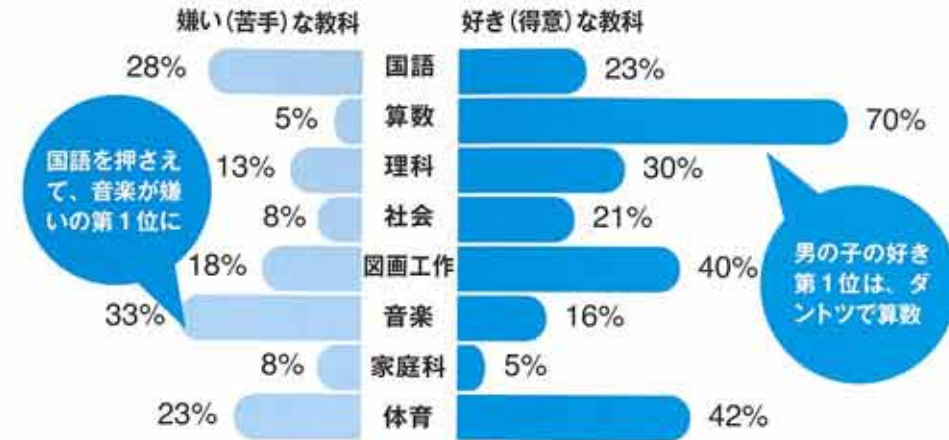


勉強面で男子と女の子では、どう違うのでしょうか? 何が得意で、どんなことに興味を持つのか、それぞれの特性に合わせた学習意欲アップのポイントを探っていきます。

男子



どの教科が好き(得意)、嫌い(苦手)?



※本誌読者へのアンケートより

男子 好きな教科 嫌いな教科

- | | |
|--------|--------|
| 1 「算数」 | 1 「音楽」 |
| 2 「体育」 | 2 「国語」 |
| 3 「図工」 | 3 「体育」 |

男子の好き(得意)には算数や図工がランクイン。男子はやはり論理的に考えたり、手先を使ってモノをつくり出すことが得意? 反対に音楽や国語のように、感性が必要な要素として求められる教科は苦手なよう。意外にも、体育は好きと嫌いの両方に分かれています。ここからも「男子はみんな運動が得意、好き」とは限らないことがわかる。親としては気をつけたい。

やる気UPポイント

好奇心を刺激すれば 難しいことでもとことん探究

ブラックホールやビッグバン、時間と空間の不思議など、概念や仕組みが少々難しくても、興味が持てると食いついて、とことん知ろうとするのが男子。未知のものへの興味は女の子よりも強く、興味を持ったものはわかるまであきらめないで、「知りたい」という好奇心を刺激してやるのが、やる気を高めるポイント。科学以外にも、数字の不思議、戦国武将の活躍、飛行機が飛ぶ仕組みなど、食いつきそうな素材をいろいろ探してみよう。

興味がわくキーワード

塩酸
時速300km
ブラックホール
エンジン
解剖 など

男子は動くもの、メカニカルなものに関心が高い。劇薬、高速、時空など、「すげえ!」「どうなってるの!?!」と感じるものにも、キラキラと目を輝かせる!



一般に男子は理系が得意、女の子は文系に強いイメージがあります。これまで男女合わせて、延べ1000人以上の子どもたちを担当した、昭和女子大学附属昭和小学校の白敷哲久先生も、「算数が得意な女の子、国語が好きで女の子もいるので簡単には分けられないが」と前置きしたうえで、「全体的には女の子は国語、男子は算数が得意という大まかな傾向はありますね」と言います。

このような傾向が出てくるのも、男子と女の子の特性の違いが関係してくるようです。

コツコツやれる女の子、興味を鍵とする男子

例えば女の子の特性としてあげられるのが、「コツコツ勉強するのが苦にならない。周りに置いていかれたくない気持ちがある」とこと。国語は、毎日コツコツ読み書きをする中で成績がアップしやすい教科。繰り返して学習が苦にならない分、女の子のほうが国語が得意になりやすいといえます。さらに、「置いていかれることへの不安が原動力となって、まじめに勉強に取り組みるので、成績がよりに上がります」と白敷先生。

一方の男子は、周りと比べてどうこうはなく、自分はいくらまで

自分。しかも興味のないものには勉強意欲を示さないという特性があります。

「漢字を10回書きましよう」と言われて、2回でわかったからいいじゃん。なんで10回も書くの? とと思うのが男子(笑)。その代わり、抽象的でわかりにくいものでも、ちょっと高度な内容でも、興味さえ持てれば、何とかわかった。とあきらめずに一生懸命勉強します(白敷先生)

興味がわくポイントも男女で大きく異なる!

興味がわく入り口も、男子と女の子で次のような違いが。

「理科を例にすると、女の子は天文の分野ならギリシャ神話、植物なら花の学習など、神秘性、色やデザイン性を入りに興味を持つことが多い。料理と関係するなど、日常生活に直結するものも好きですね。男子は今までにないもの、未知のもの、危ないものが大好き。危険な薬品、ブラックホールと聞くと、それだけで興奮して、俄然興味を持ってくれます(笑)」

どうやら男子の学習意欲を促すポイントは、「いかに好奇心を刺激するか」、女の子は「いかに身の回りの生活とつなげていくか」にあるといえそうです。



理科 女子苦手科目No.2

理系が苦手という 思い込みは禁物

女の子で理系が苦手になっていくのは、親や周りからの「女の子はそもそも苦手」「女の子で理系だと就職で不利」といった声の影響していることも。46ページのコラムにある、「新しい脳」がそうした思い込みをつくってしまった可能性が高い。

「女の子は理系は苦手、不利といった思い込みを親が持つと、『生まれつき得意なものなんだから、できなくても仕方ないや』と勉強意欲や成績の伸びを制限してしまいます」(白敷先生)

ノート

色づけは「自宅で」をルールに

女の子のノートは「あまりにカラフルできれいな場合は注意を」と白敷先生。「ノートの装飾に注力してしまい、授業内容が理解できていないケースがあるんです。色をつけるなら家での復習のときに、という決まりごとをつくらなくていいですね。授業では、黒板の書き写しや教科書の書き写しではなく、ときには走り書きでもいいので、自分で感じたことを書き込むようにしてほしいです。それを家できれいにまとめ直すようにしましょう」(白敷先生)



女の子は色の多用に注意。マーカーは、きちんと規則性を持たせて使っているかも要確認。

算数 女子苦手科目No.1

体を使う外遊びで 空間認識力を養う

「空間を認識する力は、体全身を使って動かすことで高まります」と白敷先生。図形や立体問題が心配な場合は、生活のなかで体を使う遊びを意識的に経験させ、空間認識力を養っていくとよい。ジャングルジムなど図形や立体にちなんだアスレチックのほか、キャッチボール、サッカーなどボールを使う遊びもよい。横、裏などの形が実感としてわかるし、ボールが飛んでくる軌跡を見ることで物体の運動といった難しい内容も理解しやすくなる。図形と並んで苦手な割合は、買い物の際スーパーの割引セールを活用するなど、身近なところで教えてあげるのも有効。

読書

友達との貸し借りで 読書量をUP

女の子は基本的に読書自体に抵抗はないもの。しかも、人付き合いのなかで、「借りたから読んでおきなさい」と読む意欲もわく。「流行にも敏感ですから、友達同士で話題の良い本を貸し借りすれば、本を読むようになっていきますよ」と白敷先生。

女の子の算数は、コツコツが生かせる計算問題は得意だが、空間認識力や抽象概念が必要な図形問題、割合の問題は不得手となりやすいのが傾向です。

「空間を認識する力は、やはり女の子のほうが弱いようです。この力を高めるとしたら、うんていやジャングルジム、ボール投げなど、体全体を使う外遊びをたくさんやるといいでしょう」(白敷先生)

また親のほうが「女の子は理系が不得意」という思い込みを持たないことも大切だと説きます。

「世界全体で見れば女性の物理学者は大勢いますし、学問的な男女差はないというのが世界の見識です。日本でも、薬学には理系の女性が多い。理系が好きなのは女の子は少なからずいるので、思い込みはやめて教科の好き・嫌いを見極めてあげてください」(白敷先生)

「面白そう」と思うと集中力を発揮する男の子、つまらなくても成績につながれば「コツコツ努力する女の子」。この特性は裏返すと「これをするのが苦手」にもつながります。苦手な部分はどう克服していけばよいのでしょうか？



国語 男子苦手科目No.1

時間はかかるが生活習慣から見直そう

国語力をつけるには、まず生活習慣を振り返ってみよう。「実生活で整理整頓ができないと、頭の中も片付けられません。頭の中がぐちゃぐちゃな状態では、漢字を覚えたり、文章を読んで理解、整理するという積み上げていく学習ができないのです。同様に、いつまでもコレをやる、コレをしないとアレができないなど、時間の管理ができるようになることも大切。モノと時間の管理ができていると、頭の中でいろいろなことを整理して結びつけたり、整理しながら理解したりできるようになりますよ」(白敷先生)

勉強編

ノート

まずは授業中にノートをとるところから

「男の子はとにかくノートをとらないケースが多い」と白敷先生。理由は主に「ノートが『とれない』『書かなくて覚えているから大丈夫』と過信してとらない」「書く作業をすることで頭の中が整理され、内容が再構成されていくの

で、その場でノートに書くことは大事。丁寧にでも人が読んでわかるレベルで、ノートをとることを身につけさせてください。学校の連絡帳や日記を書かせ、書くクセをつけるのもいいです」(白敷先生)



男の子はこんなノートに注意。まずはきちんとノートを書き留められることを目指そう

男の子・女の子の 苦手克服法

読書

低学年は絵本、中学年は教科書で読む練習

本を読めない子の場合、文字がまだ拾い読みだったり、文字は読んでいるが絵が出てこないため、頭で情景が理解できず読むのがつらくなってしまおうということが原因として考えられる。「低学年のうちに、情景を浮かべながらすらすら読めるようにしてあげるといいですね。それには親が絵本の読み聞かせをしてあげることも有効です。絵本に抵抗が出てくる学年は、教科書の音読を日課にしましょう。使っている漢字がレベルに合っているのだから、読みやすいですから」(白敷先生)

国語を克服して 全体の学力を上げる

「書く習慣をつける、本を読むも大切ですが、またノートをとらない男の子は多いのですが、書く作業も頭の整理につながります。ノートがとれないのであれば、連絡帳でも日記でも何でもよいので、書

男の子で国語が苦手な子が多い理由は、読み書きの力が女の子と比べて不足しやすいから。「男の子は落ち着いて勉強机に向かっているという声がよく聞かれますが、やっていて面白くないものは続かないのが男の子です。漢字の書き取りをする、文章を読む、書く、こうした勉強は繰り返すと積み重ねが必要なので、男の子はどうしても苦手になりがち。文章から物語を読み取り、整理して理解する力が不足して、国語力がついていかないというケースにつながるのです」(白敷先生)

克服法として、白敷先生は「実生活で整理整頓を習慣づけることから始めましょう」とアドバイスします。意外に感じるかもしれませんが、片付ける習慣が身につくと、頭の中の片付けもできるようになり、物事を整理して理解する力が高まるそうです。

Q 何を聞いても「別に」としか
答えず、話をしてくれない

「消化できていないからいいんだわ」と考えましよう

「年頃になると、そうなると男の子は多いですよ。これは男の子の特性です。話さないのは、お母さんに話しても仕方がない、お母さんからでしょうね。見方を変えて、学校であったことを自分の中で消化できているとも言えます。『話す』というのは手放すこと。話したいというのとは、消化しきれないことがたまっていくということ。何を聞いても話してくれないのは、消化できているので手放す必要がないからとも言えます。余計な心配はしないで、子どもを信頼して、自分で消化できているからなんだ、と思うようにしましょう。男の子の場合は、何か話したそうにしているときだけ、きちんと耳を傾けて聞いてあげれば大丈夫ですよ」(金盛さん)

Q 男の子にしては性格がおとなしく、すぐに泣き出します
否定的にとらえないようにして、良さに目を向けて

「男の子だから強い子にしなくちゃ」と思わずに、やさしさなど、子どもが持っている良さを見てあげましよう。どうしてこうなのかしら、という気持ちでいると、気になるところだけに目がいつてしまふし、どうにか直さないと口うるさくなったり、強く叱ってしまったりして、親にも子にもよくありません。親は仕事、趣味、ボランティアなど、子どもを離れて打ち込める時間をつくるのもいいと思います(勝浦さん)」「おとなしくて、すぐ泣くことを否定的にとらえてしまうと、言い方も否定的になります。否定的な言葉を使い続けると、本当に子どもはそうなってしまう。あなたはあなたでいいのよ、と買ってあげたいです」(金盛さん)



男子

Q いくら言っても脱ぎっぱなし、出しっぱなしが直らない

家事全般を身につけさせると片付けもいとわなくなります

「整理整頓に関しては、きちんとやらないと。言うだけでは効果はありません。方法としては服の片付けだけではなく、掃除、洗濯、料理など、家事全般を男の子にも身につけさせること。男の子は親が思う以上に、何かの役に立ちたがっているものです。自分の部屋は掃除したがるのではないけど、リビングを掃除してくれない?」と言つと、案外素直にやってくれたりします。家事が身につくと、脱ぎっぱなしになっているよと言っただけで、片付けてくれるようになりますよ」(金盛さん)

Q 息子の部屋でエッチな本を見つけてしまいました

高学年なら基本的には見ぬ振りを。低学年の子は注意

「小学校の高学年くらいなら、性に関する興味も出てきて当然です。親が知らないところで、友達同士でこっそり読み聞かしてたりもしますし、男として健全に成長しているということですから心配はいりません。見つけた本は、気づかれないようにそのまま同じ場所に返して、見て見ぬ振りをしてあげましよう。ただし、そこだけに興味が集まっている様子が見られたり、低学年でエッチな本を見ていたりする場合は、少し注意が必要です。心の中に、不安や寂しさやストレスなど、何かを抱えている可能性があります。何か悩んでいるか、親との関係で寂しさを感じていないか、見直してみてください」(勝浦さん)

男子・女の子の こんな場合、 どうしたらいいのですか?

Q 違うグループの子とケンカを
しているみたいなのですが、

もめ事も一つの経験、
話をしっかり聞いてあげて

「もめ事は、あえて自分と違いのある人とコミュニケーションをとろうとするから起るものです。世の中は『違う人』だらけですから、人とのもめ事を経験しておくことも大切です。すぐに親が前に出てしまうと、子どもがハードルを乗り越える成長のチャンスをとってしまふ場合もありますから、まずは子どもの話を聞かず、うん、うん、と受けとりましよう。子どもには親が思うより潜在能力があります。話を聞いてもらうだけで『でも私も悪かったかな』と相手の立場を考えたり、『こうしてみよう』と自ら解決策を見つけてたりするものです。そのうえで、どうしても心配がなくなるなら、担任に相談してみるのがよいと思います」(漆先生)

「近頃、話をしてくれなくなった」「友達ともめているみたい」「子どものこころが気になる、こんな心配が出てきた」というとき親はどのように対応したらいいのでしょうか。3人の先生方に教えていただきました。

Q 女の子なのにガサツで、
このままでは心配です

気をつけることをひとつ決めて
徹底させましよう

「一度に多くのことを言うよりも、何か一つだけ気をつけることを決めて、それを徹底的に教えましよう。何か一つに気をつけることが、全体に意識を配っていくことにつながります。例えば「食器を置くときはガチヤンと置かない」「あいさつは必ずする」「どうせという言葉は使わない」といったことでもいいのです。それに絞って、徹底して気をつけるようにすると、周りの人への配慮が必要なんだとか、言葉が変わると人との関係がよくなるんだな、といったことに気がきます。そこから他のいろいろなことにも、気を配れるようになっていきます」(漆先生)

Q 同性なので、
娘の性格や言動を、
つい厳しく見てしまふ

女性同士で
楽しめることを
見つけては?

「同性だから目が厳しくなってしまうのでしたら、いっそのことお子さんと一緒に女性であることを楽しんでみませんか? 女同士だからこそ楽しめるものを探したり、女同士でしかわからない話を楽しんだり、お母さんも楽しんで、子どもも。お母さんと過ごすこの時間は楽しい、と思えるものを見つけてみましよう。そうした時間を過ごすなかで、これまで見えていなかった子どものいい点に気づき、子どもを見る視点も変わっていくと思います」(勝浦さん)

Q 父親に話をしてくれなくなり、
最近は避けられています

成長の過程では仕方ないこと、
嫌われるのを怖がらずに

「思春期に入ると、娘から嫌われるお父さんは多いです(笑)。自分の性別を意識するようにになり、その延長で異性に対する嫌悪感が出てくる場合があります。これは成長過程の一時期的なことなので、しつこくせず、待ちましよう。社会に目が向くようになると、進路の事など相談されるようになりましよう(漆先生)」「娘に嫌われたくないからといって、腫れ物に触れるように接するのはよくありません。避けられる時期は一時的ですから、怖がらず、これまでと同じように普通に接ましよう」(金盛さん)



女子

娘が大人になる頃

日本が少子化時代であることを考えると、社会での女性の役割は、この先大きく様変わりしていくことが考えられます。「今の小学生の子どもたちが大人になる頃には、日本の社会は親世代の想像を越えて変化している」と漆先生は言います。「これまで女性のいなかった職種や立場で活躍する女性が増えているなど、今までの親世代の常識が通用しない社会になっていると思います。特に女の子の仕事や人生については、『今まではこうだったから』と自分の経験でアドバイスしたり、判断したりすることができなくなっていくでしょう。人生の先輩としての経験と子どもへの愛情から仕方ないことかもしれませんが、大切なのは、過去の経験から子どもの未来を決めつけないことだと思います。」(漆先生)